

H27 : New P J (リスク職能教育プロジェクト) 学習会報告書

テーマ：5年目の福島～食と農の現場をつなぐ

報告者 一般社団法人 札幌消費者協会 小山里美

報告日時	平成27年12月14日
開催日時	平成27年12月6日(日) 13:00~17:15
開催場所	北海道大学農学部 食資源研究棟3階 F319教室(札幌市北区北9条西9丁目)
第4回テーマ	5年目の福島を考える～食と農の現場をつなぐ
講師	福島大学経済経営学群教授 小山 良太 氏
仕組	ワークショップ

開催内容	<p>H27 シリーズ学習会の4回目(最終回)は、北海道大学農学部食資源研究棟3Fで行われ、食味テスター7名、食と健康を考える研究会3名、他10名の参加者と、ファシリテーター5名と、実行委員3名、リスコミメンバー8名が出席した。</p> <p>今回は3回の学習会の各回の概要と、ワークシートが事前に参加者に郵送された。ワークシート(参加者同士で話し合うためのメモ)の“グループ語り合い”のテーマに沿って20名の参加者とファシリテーター4名が、A、B、C、Dの4グループに分かれ、各グループで意見交換しまとめ発表。講師からの返答と質問を繰り返した。後半は、円形に椅子を並べ、座った。A4用紙が配布され、全3回の学習会を受講した後の各自の感想や思いや疑問などを自由に書き、その用紙を皆に見せながら、一人ひとりが語った。講師のリプライと展望と感想、プロジェクト総括から締めくくりの一言があった。</p> <p>【講師】 <u>福島大学経済経営学群教授 小山 良太 氏</u></p> <p>【講師の回答&応答】 チェルノブイリ(◆)と福島(●)の原発事故を比較する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放射能—◆原子炉が爆発し核燃料ごと放出し多岐の対応が必要 <ul style="list-style-type: none"> ●セシウムとヨウ素のみが漏れた ・地形 —◆山がなく平野～降ったセシウムがそこに留まる <ul style="list-style-type: none"> ●阿武隈山脈と川、台風～表土ごと水で流される→海の汚染濃度が上がる ・食品の安全基準 <ul style="list-style-type: none"> —●リスク要因×摂取量 ex.)主食：じゃがいも・パン・・・10ベクレル 稀：きのこ・・・2,500ベクレル ◆100ベクレル <p>農作物別の汚染</p> <ul style="list-style-type: none"> ・穀物：貯蔵しやすく、含有量が測りやすい→全量検査(70億円) セシウムの特性は水に溶けやすい、粘土に入り込む 水田は水に溶け込むセシウムを吸うことになるが?(添付資料の漫画参照)
------	---

- ・野菜：土から放射能を吸えない、空気中や水に溶けたセシウムは吸収する
ex.)ほうれん草 1年目、降った放射能あり
2年目以降なし
- ・果物：根が表土から30cm以下（放射性物質の土の浸透は1cm）は影響なし
1年目は樹皮と葉にあり
- ・畜産物：えさの選択で回避
- ・鮮魚：試験操業のみ、タコ・イカは蓄積しない（海水と同じ濃度のため）

反省と現状

- ・原子力政策の、開示と対策がなかった
- ・隠すことは無駄で不可能
- ・政府と東京電力の信頼度なし←地元農協・職員が自前で調査
- ・情報の発信をしたが伝わっていない←広告代理店が入り16億円を投じた政府・芸能人・キャスターを使った情報発信の金の行方は？芸能人などは無償であった
- ・首長が“帰村宣言”を行った場合、1年後には政府の保護は打ち切られる
- ・福島県内では、放射能検査結果を毎日、新聞などのマスコミに出している

今後を考える

1. 安全性の担保は何か—仕組みの説明が求められている
← “イメージ戦略” よりも “安全の根拠” をきちんと知らせる **「結果+理由」**
 - ・ ex.)なぜ1年目は1000セシウムで2年目は0なのか
 - ・ 情報として伝わったのは（消費者アンケート結果から）
 - ×：芸能人・キャスター・政府を使った手法
 - ：シール・説明・検査
2. **放射能リテラシー教育**
←被爆地ではなく、首都で行うべき、特に小学校
3. 福島県人の思い—800年の歴史（16代目）を受け継ぐ水田を残した生活を希望・・・しかし、継承者の高齢化と支援の壁
4. SPEEDI は公開しない
5. 初期段階のデータは貴重—チェルノブイリは1985年に起こったが、1991年以降ロシア崩壊後のデータのみ
6. 食（鮮魚）は海流を考えた試験を行う必要がある
農地の検査（現法律では県毎）を世界規模で行う
7. 個人賠償問題—何が失敗で何が必要かを整備する必要がある

【参加者の宿題】

事前学習用の資料、3回分の学習会（8/4,9/4,10/26）で使用した講師資料と学習会概要資料とワークシートが参加者に郵送された。

ワークシートには事前に記入をして持参する欄が設けられていた。

1. もっと聞いてみたいこと
2. 参加者で話し合いたいこと
3. 今後について思うこと

【語り合い①】

- ・自己紹介
- ・事前記入のワークシートをもとに、グループで述べ合う
- ・グループ毎に疑問・論点の整理

【講師に聞こう】

グループでまとめた疑問を講師に問い、やり取りを行った

【語り合い②】

これからの福島をめぐる農林水産物等についての情報提供やリスクコミュニケーションの在り方をグループで述べ話し合う

【全体で語り合う—講師の応答】

各自の気持ち、考え、感想をキーワードや短文にして書いて、全体で聞き合う

次回、平成27年度シリーズ学習会&ワークショップを振り返る会は2月26日（金）13:00～15:00、場所は北海道大学農学部食資源研究棟3F（F319教室）です。

所
感

<サブファシリテーター担当：原佳子氏より>

前回まで、3回の講座を基としたまとめであり、より理解が深まった。

事前に資料が配られ、課題が提出されていたことにより、短い時間で適切な解答を得られ、効率よく進められたと思う。